

## 知事と区市町村長との意見交換（板橋区）

令和1年10月9日（水）

14時00分～14時20分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。冒頭知事から一言お願いいたします。

○知事 区長をはじめ皆様、都庁にお越しくささいましてありがとうございます。また、日頃よりの都政運営への御協力・御理解、誠にありがとうございます。長期戦略を描いていこうということで、それぞれの地域の課題などを伺っております。短い時間となりますが、どうぞ板橋の事情、そしてまた、今後の発展についてのお考え等々、お伺わさせていただきます。よろしくお願ひします。

○行政部長 坂本区長よろしくお願ひいたします。

○坂本区長 今日は小池知事様はじめ、関係の皆様には大変貴重な時間をいただきましたことをまず感謝を申し上げます。また皆様には区政の運営に関しまして、特段の御理解と御協力と御指導をいただき重ねて御礼を申し上げたいと思ひます。誠にありがとうございます。

知事の方には、先日のデイランの方では、9月15日に板橋区の方で、JOCさんと一緒に取り組みをしました。その際にもお越しいたささいまして本当にありがとうございます。

時間の限りがあるので、早速本題に入りたいと思ひますけれども、今日私の方からは、大きく3点の内容をお願ひ、要望事項として持ってまいりました。まず1点は、まちづくり事業についてでありますけれども、その中では、東武東上線の立体化の問題でありますけれども、板橋区では、東武東上線大山駅付近の立体化の早期実現に向けまして、駅周辺のまちづくりを推進するとともに、区民、区議会と共に推進協議会を結成をし、その機運醸成を図っているところであります。東京都様におかれましては、大山駅付近の連続立体化交差事業を着実に進めていただいているところであります。本区は、大山駅付近立体化を皮切りとして、将来的には、全線立体化を目指して検討を進めているところであります。東京都様の踏切対策基本方針の中において、次の立体化の区間とされております上板橋からときわ台駅付近の立体化に向けまして、着実に取組を推進していくためにも、これまでも増して東京都様の御理解・御協力をお願ひしたいと思っております。これが第1点目でございます。

第2点目は、高島平地区の都市再生の推進であります。高島平地区につきましては、昭和40年代の後半に、まち開きから約50年、半世紀近くの年月を経て、現在は施設などの老朽化とともに、急速に高齢化が進んでいることから、平成27年10月に、地域を一体感のあるデザイン都市として再生を図るべく、高島平地域グランドデザインの策定をいたしました。大規模団地の更新を端緒として、連鎖的都市再生に向けて団地を所管するUR都市機構と連携をした取組が始まっております。今後、建築の基準法、あるいは一団地認定等、必要に応じた用途地域の変更、並びにプロムナードと言ひまして、これは、30メートルの

幅の約3キロの緑地帯があるんですけども、この再生など、様々な面で御協力を頂戴したいと考えております。また、この地域における板橋区のトラックターミナルですが、トラックターミナルの再開発についても、地域の環境・経済・社会の推進、促進が図れますように、区との連携を基に事業を推進していただくようお願いしたいと思っています。

3点目のまちづくりなんですけれども、これは、スポーツと賑わいの関係であります。先日、都立城北中央公園で開催いたしましたオリンピックデイランに、知事もお越しをいただきまして、大変イベントが盛り上がったところをごさいます、感謝しております。東京2020大会のレガシーを将来に引き継ぐためにも、23区北部における最大の運動公園として、陸上競技などのスポーツ機能を中心に、賑わいの創出を見据えた都立城北中央公園の再整備を要望いたします。区といたしましても、区立板橋体育館と都立城北中央公園の連携をさらに強化することによって、魅力あるまちづくりを推進してまいりますので、御協力をお願い申し上げます。

大きい2点目は、魅力ある教育の推進であります。まず1点目は、教職員の働き方改革の推進であります。若い方の教員離れ、また、教職課程履修者の減少が進んでおりまして、教育の質についての問題となっていると感じています。教員の働き方改革を進めるうえにおきましては、例えば職員室をクリエイティブな執務環境にすること。こういったものを考えていくことが必要と考えています。例えば、教員用の校務支援システムについては、教員がどの市区、どの市や区に異動しましても戸惑うことがないように、すぐにシステムが利用できるような東京都の標準的なシステムがあれば、校務の事務の効率化にもつながると考えています。教員にとっては魅力のある執務環境の整備を設立することによって、教育の質の向上にもつながると考えています。

2点目は、ICTの基盤整備の推進であります。学校で学ぶ子供たちが、これからの社会を力強く生き抜いて、また、未来を支える人材として求められる力とは、さらに進化するAI、このAIを活用する力と読み解く力など、AIでは代替できない力であると考えています。この二つの力を、授業を通して育成していくためには、ICT教育を最大限活用しながら、座学と実技から学びに対する興味・関心を、きっかけをつくり、そして、質の高い教育を提供していくことが必要だと思っています。教育のICT環境は、タブレットの配置拡大等のハード環境はもとより、児童・生徒用の、また、教員用のデジタル教科書など、様々な関連ソフトやアプリなど活用できるインフラ整備も必要になってくることから、5Gなどを見据えた基盤整備を進めていただきたいと思います。魅力ある教育の実現に向け、教員の執務環境や教育ICTインフラ整備の推進は、東京都のお力添えのなければできないことをごさいますので、是非御協力をお願いしたいと思っています。

最後の大きい3点目は、SDGsの推進であります。私の胸にもありますけれども、このSDGs、昨年12月にCOP24、ポーランドに私も参加してまいりまして、SDGsの施策を展開する必要を感じました。準備期間は短かったところではありますけれども、本年の2月に策定いたしました区の総合計画「いたばしNo.1実現プラン2021」の方に盛り込むことによって、区政としてSDGsの推進をしていく土台をつくることができたと感じています。日頃から政策

を打ち出すタイミングが大変重要だと考えておりますので、東京都様が検討を進めております「未来の東京」においても、成長を生み続けるサステナブルな東京に向けて、板橋区との協力体制がさらに強化されることを切に期待をしております。

大きく3点申し上げました。どうぞよろしく願いいたします。

○知事 それでは、3点の御指摘がありまして、まずハード系ですが、踏み切りの関係でございます。まず、平成16年に踏切対策基本方針が策定されておりまして、今お話ありました東武東上線大山駅のそば、それから、ときわ台駅から上板橋駅付近の2区間の鉄道立体化の検討対象空間と位置付けられているところであります。鉄道立体化には、地元区が主体となって地域の将来像や鉄道立体化を契機としたまちづくりの方針を具体的に検討することが必要であり、まさしく区長はそちらの方も御専門かと存じます。ときわ台駅から上板橋駅の付近につきましても、是非地元区のまちづくりの検討状況を踏まえながら、適切に対応していきたいと考えております。それから、大山駅付近の立体化に関してですけれども、今都市計画手続きなどを進めて、また地元区や鉄道事業者との連携で、早期の事業化に向けて取り組んでいるところでございます。

それから、高島平でありますけれども、区と具体的な協議はこれからとなりますけれども、区における地区計画の策定などの動向に応じまして、様々な相談にはしっかり対応させていただく所存であります。それから、板橋トラックターミナルを含みます西北部の流通業務団地ですけれども、ここは言うまでもなく首都圏を支える物流拠点になっているわけであります。今、都といたしまして、近年の物流ニーズがもう激変していると言ってもいいかと思うんですが、それに応じまして、西北部の流通業務団地の適切な更新を誘導していくということから、都市計画の変更も検討をいたしております。これからも引き続き、区、そして地権者の方々と検討を重ねまして、流通業務の団地の立地特性を踏まえまして検討を進めていくという考え方です。

それから、学校の先生も働き方改革が必要だと、以前から課題になっているわけですが、それはすなわち、学校教育の向上にもつながる話になってまいります。中でも、統合型の校務支援システムを活用することで、学校の業務の改善を進めるうえで有効な取組だと、このように考えております。都は、先般、副知事として宮坂さん、ICTなどお詳しい方でございますけれども、就任いただいて、自治体行政におけるICTの利活用、そして、区市町村、それについて、区市町村との勉強会を立ち上げるなど、おっしゃるとおり、これからの5Gなども活用して働き方改革を進める。また、都民にとっても、いろいろな面での手続きの簡素化とかスピード化、これを図っていきたいと考えておりまして、校務支援システムも、それぞれの市や区が既に導入を進めておられると思いますけれども、システムを標準化することで、学校へのより一層の効率化ができると。また、検討すべき課題であるというふうに捉えております。

それから、ICTの基盤整備の推進についてでありますけれども、TOKYO Data Highway基本戦略という戦略を、先だって宮坂副知事とともに打ち出させていただきました。その中で、5Gの施策の展開の中として、ICT教育や遠隔授業なども位置付けたところでござい

す。児童や生徒の学びの質が高まることや、また、これからの時代に求められるような資質能力を育成するためには、この ICT 教育環境の整備が不可欠でございます。板橋区におかれては、いろいろともう既に ICT 教育など先進的に進められていると伺っておりますけれども、都の教育委員会と共に先進的な取組を実施しておられる板橋区のような区市町村と連携しまして、ICT 機器の活用効果など、多面的に検証しながら支援のあり方について検討していきたいと考えております。

最後に、COP24 にも御出席になったというお話から、SDGs についての御見識、大変深いものがおありだと拝察させていただきました。今回も台風 19 号が迫ってくるようで、方向性は、こちら関東地域という、そういう予測もされています。つい数日前までは、ただこの、ただのって言いましょうか、普通に台風だったのが、ここへ来まして随分力を増していると、このところの台風はこれまでにない、激甚なものになっているということなどを考えますと、改めて、問題が何なのか、もちろん科学的な分析もずっと長年行われていましてけれども、やはりこれはいろいろな現代の生活、ライフスタイルなどなどから起因するという考え方も、全くゼロではないということだと思います。そういう意味で、経済・テクノロジー・気候変動・人口構造といった大きな変化を見据えた形で、この SDGs、つまり持続可能な社会にするためのなすべき政策を、17 の項目で詰めた SDGs でございますので、それぞれ地域にふさわしい SDGs のこの展開ということについては、8 月にも東京で、東京都としまして、「未来の東京」への論点の中にもそのことも盛り込ませていただいているところでございます。東京の長期的な羅針盤としての骨太の基本戦略でございますので、また、長期にわたって見通すような戦略でない、短期のものでは目の前の課題だけというわけにはもはやいかな。そういうことから、御指摘があった SDGs を、その視点を活用した戦略づくりというのは非常に今の時代不可欠なものだと思っておりますので、区長の今の御発言、大変意を強くしたところでございます。また、板橋区で進められておられる様々な SDGs の活動については、都としても連携していきたいと思っております。

○行政部長 ありがとうございます。区長いかがでしょうか。

○坂本区長 非常に、知事の方から、最後の SDGs も含めて、非常に板橋区にとりましても後押しをしていただけるような、また、問題が大きいもんですので、都市の問題として、また、日本全体の問題としても考えていく必要があると思っておりますものですから、教育だけではなくて、環境、または経済とか社会とか、いろんな区民都民のライフスタイルをやはりよく理解をしながら、長期にわたって、子供たちとか、あと、お年寄りとか、自分の人生含めて共感できるような、そういう SDGs をつくりたいと思っております。御指導のほどお願いいたします。

○行政部長 そろそろお時間になりましたので、最後に知事から一言お願いいたします。

○知事 10 年ぐらい前でしたかね。下村さんに声をかけていただいてホテルを見に行ったことが。

○坂本区長 板橋区の。

○知事 ええ。環境教育の一貫にもなりますし、また、そういう観点からも板橋ならではの

の環境教育や環境政策を打ち出していただければと思います。

今日は誠にありがとうございました。

○坂本区長 ありがとうございました。

○行政部長 それでは、意見交換を終わらせていただきます。ありがとうございました。